



撮影=豊崎 淳
photos by Toyosaki Jun



経営写
KEIEISHA
No.368

南武社長

野村 和史

工場でも女性が活躍できる環境を整え
技術や技能を継承していく

大田区の中小企業が一体となってモノづくりの街を世界にアピールしていきます。

PROFILE

のむら・かずし

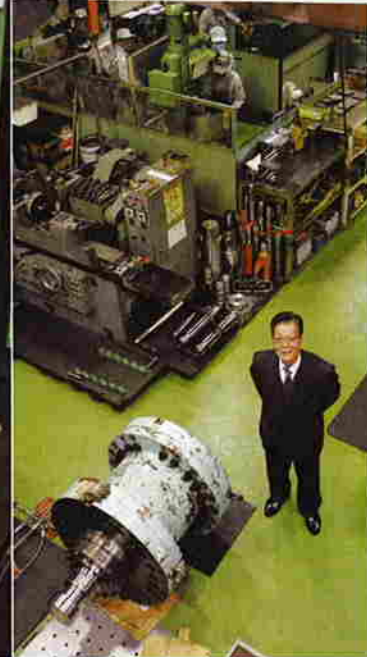
1938年東京都生まれ。61年青山学院大学経済学部卒業後、家業である南武鉄工（90年より現・南武）入社。火事による工場全焼の影響で一時経営を断念。退社し、外資系商社などに勤務。84年南武鉄工へ再入社し、95年社長就任。



5Sを工場で徹底させ、 3Kのイメージを払拭します



「会社は舞台、主役は社員、私は演出家」と話す野村さん(右)。工場オペレーターとして働く女性社員は、スポーツ経験者ばかり。社内の雰囲気明るくしている(中央)。職人の技術をどう若者に伝えていくかは重要な課題になっている(左上)。設計図を前に、担当者と徹底して話し合う(左下)



自宅には多くの絵画を掛け、休日は美術館巡りをする事も多い



日本ダイカスト工業協同組合新年賀詞交歓会に参加(左から西村仁・プログレス社長、野村さん、森川和男・秋葉ダイカスト工業所専務、甲斐宏・日本ダイカスト工業協同組合理事長)



南武相談役の二見希望氏(左)と会食。二人は幼馴染みで50年以上のつきあいだ



タイの工場について打ち合わせ。大田区産業振興協会専務理事の山田伸顕氏(左)は「南武のスキルは非常に高い」と評価している

Kでは若い人材が定着しません。そのため、女性社員を採用することによって、男性社員を確保することにしました。女性社員は真面目で、仕事も丁寧です。さらに会社の雰囲気明るくし、男子の奮起も促してあげています。

二〇〇二年から、当社はタイに工場を設立、操業しています。六月からは別の場所に移転し、新工場を設立します。場所はタイ・アマタナコン工業団地「OTATECHNOPARK (OTP)」内の土地を大田区から借りることにあります。

というのも、海外に拠点を持ちたい企業も多いのですが、中小では簡単に海外に進出することはできません。そこで、大田区が主導する形でタイに製造工場の拠点であるOTPをつくったのです。

このような取り組みは、多くの中小企業にビジネスの可能性を広げてくれます。当社も更なる発展を目指して、成長していきたいと思っています。

おかげさまで当社は一九四一年の創業から、六十五年が経ちました。六三年には火事で工場を全焼し、経営を一時断念した時期もありましたが、油圧シリンダの専門メーカーとして発展してきました。

油圧シリンダとは、重いものを持ち上げる機械の動力源になるもので、フォークリフトや理髪店で上下動するイスなどに利用されています。主な取引先は、自動車メーカーや鉄鋼関係で、新製品の開発では、最低でも一年にひとつは特許を取得することを目標にしています。

本社のある東京・大田区は、多くの中小製造業の集積地になっています。中小製造業には技術や技能の継承といった問題がありますが、これはそのまま当社の課題になっています。

また、町工場というと「3K(きつい、汚い、危険)」というイメージが先行していますが、当社は「5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)」を社員に徹底させています。やはり、3